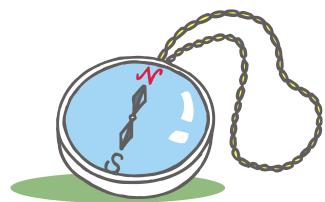


羅針盤



第 36 号 令和5年(2023年)2月27日(月)

◆ 「時期を逃すな」

人にはそれぞれ成長の時期や成長の度合いといったものに違いがあります。何か新しい物事を始めるのにも適切な時期があります。植物は、適切な季節に種を蒔き、水をやり、肥料を与え、そして、植える場所もまたとても大切なことです。「ヒマワリはひなたに、すずらんは木陰に」この言葉は、「適材適所」が如何（いか）に大切であるかを教えてくれている言葉で、大正時代の末期から昭和時代の初期にかけて活躍した童謡詩人の金子みすゞさんが残した名言として知られている言葉です。植える場所が大事なことは当然のことではありますが、一方で「適時」、つまりは、植える時期、肥料をやる時期を間違ってしまっては話になりません。場所と同時に、時期がとても重要なことなのです。皆さん、今やるべきことは何なのか、夢や目標に挑戦することを忘れることなく、自分の掲げた夢や目標の実現に向けて、今やるべきことを考え、常日頃から見つめなおす機会を持っておくことがとても大事なことです。皆さん自身も、振り返ってみれば、「あの時には、こうすればよかった」といったようなことを思い返すことがきっとあるはずです。せっかく訪れたチャンスや、時期を逸（いっ）してしまっていては、夢や目標の実現は、遠のいて行くばかりとなってしまいます。時期を逃さず、全力で取り組む気持ちを忘れることなく、常に前へ前へと進みゆく人であってほしいと思います。そして、物事の本質を見極めるためにも、探求心を持っていてほしいと思います。日頃から食する機会の多い玉ねぎは、植物の根の部分なのか、茎の部分なのか、それとも、葉の部分なのか。実は、根の上の丸くかたい部分が茎となっていて、葉の根元が肥大化して玉状になった部分を食しているそうです。「玉ねぎの皮を剥（は）ぐように」という言葉の教え通り、薄い皮を一枚一枚剥（は）いでいくと、徐々に物事の本質といったものが見えてくるはずです。焦らず、慌てることなく、いつかは必ずや中心にたどり着いて、物事の本質を見極めることができる日がやってくることを疑うことなく、日々の努力を積み重ねていってもらいたいと思います。



◆ 「米をつくるには、田をつくれ」

2月も末となりましたが、年明けのお正月には生徒の皆さんも雑煮（ぞうに）を食べたのではないでしょか。一年の無事を祈り、元気で過ごせるようにといった願いを込めてつくられる雑煮の歴史は古くて、室町時代にはすでに食されていたそうです。雑煮には餅がつきものですが、その餅はもち米からつくられています。もち米も米ですから、田んぼでつくられます。「米をつくるには、田をつくれ」という言葉があるように、良い米をつくるには、田のあぜ草を刈り、土を耕し、肥料をやって、田を育てるといったことが必要です。何事にも環境を整えることがとても大切であるということです。皆さんの学校生活に置き換えるとしたら、学習環境と言えるかもしれません。時間を守り、整理整頓がなされた自分自身の机の周りの環境を見直すことがそのまま第一歩であるということではないでしょうか。

